

芸術系教科・科目の資質・能力 の育成等について

議題

芸術系教科・科目の資質・能力 の育成等について

論点 1 資質・能力の整理について

論点 2 「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査等
について

論点 1 資質・能力の整理について

芸術系教科・科目の資質・能力（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」）のあり方について、身体性や創造性を重視しつつ、学習指導要領の構造化の趣旨を踏まえ、どのように整理していくことが考えられるか

論点 1 資質・能力の整理について

1 現行学習指導要領における資質・能力の整理について

現行学習指導要領における資質・能力の整理

- 学校教育法第30条第2項及び小・中・高等学校学習指導要領の総則において、**基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことが明記されている**

(参考)

・学校教育法 第30条第2項

「前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」

・小学校学習指導要領 総則

「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること」 ※中学校、高等学校においても同様の規定あり

- これらを踏まえ、児童生徒が社会の変化に主体的に向き合い未来の創り手となるために必要な力を育むことなどを
目指し、教科の内容を学ぶことで児童生徒が「何ができるようになるか」を重視するため、現行学習指導要領において、**目標・内容を資質・能力の観点から再整理した**
- また、学習指導要領解説総則編において、「知識及び技能を活用して課題を解決する」過程について、「**思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程**」など3つの学習過程に分類した上で、その**違いに留意して、思考力、判断力、表現力等を育成することの重要性**が記述されている

(参考)

・小学校学習指導要領解説総則編における学習過程の分類 ※中学校、高等学校においても同様の規定あり

ー物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程

ー精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考え適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程

ー思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

論点1 資質・能力の整理について

1 現行学習指導要領における資質・能力の整理について（つづき）

現行学習指導要領における芸術系教科・科目の資質・能力の整理

- 以上を踏まえ、現行学習指導要領の芸術系教科・科目の目標（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」）は、次のように規定されている

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
音楽	曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、 <u>表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付ける</u> ようにする	<u>音楽表現を工夫すること</u> や、音楽を味わって聴くことができるようにする
図画工作	対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、 <u>材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したり</u> ことができるようにする	<u>造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり</u> 、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする
書道（芸術科）	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、 <u>効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける</u> ようにする	書のよさや美しさを感じ、 <u>意図に基づいて構想し表現を工夫したり</u> 、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする

※現行の学習指導要領の目標（小学校音楽の教科目標、小学校図画工作の教科目標、高等学校芸術科書道Ⅰの科目目標）より抜粋。音楽及び図画工作、美術、工芸においてはそれぞれの教科の系統性や発達段階に沿って、小・中・高等学校を通して、基本的に同様の考え方により目標を整理

論点1 資質・能力の整理について

1 現行学習指導要領における資質・能力の整理について（つづき）

- 現行学習指導要領においては、各教科等に共通する資質・能力の全体の整理を踏まえた上で、芸術系教科・科目においては、身体を通して、知性と感性を融合させながら捉えていくことを重視し資質・能力を整理している
- 具体的には、歌唱・演奏する、つくる、書くなどの表現については実際に身体や楽器、用具などを用いながら表出されるものであることから、「知識及び技能」において整理し、思いや意図、発想や構想など、思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて表出していることについては「思考力、判断力、表現力等」において整理している
- また、図画工作、美術、工芸については、「表し方を工夫して表す」など「工夫する」と「表す」ことを技能において示している。これは、材料や用具、表し方を選んだり、組み合わせたりするなど、工夫して表すときには思考が伴っているが、思考が頭の中だけにとどまらず、材料や用具を使って表すことに繋がっている。単に表すだけではなく、工夫しながら表すことが重要であることから、一連の過程として捉え、技能において整理している。

論点1 資質・能力の整理について

2 次期学習指導要領における資質・能力の整理について

- これまでの芸術ワーキンググループにおいては、芸術系教科の特性として、身体性や創造性の重要性について認識の共有がなされてきた

(参考) 芸術ワーキングでの委員御発言の例

- ・芸術系教科では、実際に本物に触れる教科特性があるので、身体性が重要
- ・デジタル機器の活用も大切であるが、実際の対象物を諸感覚で感じるフィジカル要素も重要
- ・知識・技能の学びを大切にすることが芸術教育の本質である
- ・思いや意図をもつことは当然だが、それをどのように形にできるかは技能が必要
- ・技能は体で覚える側面もある
- ・芸術系教科の特徴として創造性がある
- ・創造性では、身体も使いながら自分自身にとっての意味や価値をつくりだすことが重要 など

- 創造性をこれまで以上に豊かにするという観点から、これからの社会を創り出していく子供たちに必要な資質・能力について整理していくことが重要となる。また、AIがより一層進化していくこれからの時代において、身体性を基本とする人間の本来的能力としての技能の位置付けがより一層重要となる
- 芸術系教科における、問いやテーマ、答えを自分で作りだしていく学習が、学校教育において芸術教育が担う役割を果たしていく上で一層重要となるという観点から、次期学習指導要領において、思いや考えを基に新たにつくりだし、その際に身体を用いて具現化していくという児童生徒の学びの姿に即した資質・能力のあり方として、指導の更なる改善・充実に繋がるよう整理することが重要となる
- なお、第14回教育課程企画特別部会（令和8年2月2日開催）において、各WGにおける資質・能力の構造化の検討状況の一覧が示され、論点整理で示された資質・能力の構造化の趣旨や、総則・評価特別部会で整理したチェックポイント等を踏まえた検討がなされたところ、「資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討の方向性（案）」において、次の点に関して検討が必要であることとされた

論点 1 資質・能力の整理について

2 次期学習指導要領における資質・能力の整理について（つづき）

（資質・能力の3つの柱の性質を踏まえた整理について）

並列パターン、並行パターンといった形式上の違いはあれど、資質・能力の整理は本質的なところで共通している必要。特に「思考力・判断力・表現力等」については、これまでに習得した知識や技能を活用して、実社会・実生活などの場面を想定した課題解決に近い形で資質・能力を発揮するという性質の柱であり、「知識及び技能」とりわけ技能との適切な整理が必要。「学びに向かう力・人間性等」は「思考力・判断力・表現力等」の中で見取る方向で検討していることも踏まえ、異なる整理をしている教科においては、引き続き検討が必要

※「資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討の方向性（案）」より抜粋

- 次期学習指導要領においては、構造化を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を一体的に育成するとともに、「深い学び」を授業で具現化していくことを目指している
- 今後の芸術系教科・科目における資質・能力の在り方として、現状の課題を踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けられるようにすること、それらを活用して思考力、判断力、表現力等を育むことを往還しながら、未知の状況に対応できる思考力、判断力、表現力等を育むとともに、生きて働く知識及び技能を習得していくことが重要である
- 具体的には、今後の芸術系教科・科目における「技能」については、一定の手順や段階を追って身につく個別の技能のみならず、変化する状況等に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していくことが重要ではないか。また、児童生徒自身が自分の思いや考えをもつことができることと、その思いや考えを技能を活用して表現できることが重要ではないか
- 以上を踏まえ、芸術系教科・科目の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力に関し、以下のように、現状の課題及び改善の方向性を整理する方向で検討してはどうか

論点1 資質・能力の整理について

2 次期学習指導要領における資質・能力の整理について（つづき）

音楽

〔現状の課題〕

- ・ 工夫する（思いや意図をもつ）場面と、思いや意図に合った表現をするための技能を習得する場面は、本来一体的に行われるべきものであるにも関わらず、別々に位置付けられることが多く、学習の流れに即していないこと
- ・ 表現を工夫し思いや意図をもつ場面で、言語化はするものの実際の歌唱や演奏につながっていないかったり、具体的にどうするかが曖昧なまま深まらなかつたりしていること
- ・ 実感を伴って知識を習得したり、必要性を感じながら技能を習得したりすることに課題がある

〔改善の方向性〕

- ・ 習得した技能を生かして工夫するプロセス全体を思考力、判断力、表現力等として一体化することで、表現の工夫が具体化され、学びの深まりにつながる
- ・ 技能と知識の関係性を明確にし、統合して一文で示すなどすることで、子供が技能の必要性を感じたり、実感を伴って理解したりすることにつながることを期待される

小学校音楽の目標の改善案の例

現行		改善案	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、 <u>表したい音楽表現をするために必要な技能</u> を身に付けるようにする。	<u>音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができる</u> ようにする。	<u>音楽を発想豊かに表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能</u> を身に付けるようにする	<u>音楽表現についての思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりすることができる</u> ようにする

論点1 資質・能力の整理について

2 次期学習指導要領における資質・能力の整理について（つづき）

図画工作、美術、工芸

〔現状の課題〕

- ・意味や価値を創造していく過程において、発想や構想をすることと工夫して表すことが別々の資質・能力に位置付けられており、学習過程（子供が思考しながら表現するまでの流れ）においては連続しているが、異なる資質・能力として捉えることとされていること

〔改善の方向性〕

- ・発想や構想をしたことを工夫して表現するプロセス全体を、「思考力、判断力、表現力等」として一体的に示すことで、子供の思考のつながりを重視しつつ、学びの深まりを捉えることができるようにする
- ・資質・能力の構造化の中で、他の学習や生活の場面でも活用できる「技能」が習得されるよう、学習の深まりを示す。また、技能を身に付けることと、発想や構想をしたことを工夫して表現することは、別個に働くのではなく関連し合って一体的に育成されることを示す

小学校図画工作の目標の改善案の例

現行

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、 <u>材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることが</u> できるようにする	<u>造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり</u> 、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようになる

改善案

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、 <u>材料や用具を使い、表し方を身に付けること</u> ができるようになる	<u>造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方の工夫などについて考え、創造的に表現したり</u> 、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようになる

論点 1 資質・能力の整理について

2 次期学習指導要領における資質・能力の整理について（つづき）

書道

〔現状の課題〕

- ・「技能」においては、身体性を伴う表現活動の中で発揮・育成される技能の成果である表現までを含めて位置付けているが、「思考力、判断力、表現力等」における「表現力」は、言語により表現する力として整理している。このため、資質・能力における「思考力・判断力・表現力等」と、身体性を伴う「表現力」の捉え方との関係が不明瞭であった点に課題がある

〔改善の方向性〕

- ・構想・工夫して書作品として表現するプロセス全体を、「思考力、判断力、表現力等」として一体的に示すことにより、生徒の構想・工夫する学習の過程をより重視し、成果物から「表現力」の習得状況を見取ることができるようにする。また、「表現力」を身に付けながら高まっていく「技能」について、資質・能力としての位置付けがより明確となるよう改善

高等学校芸術科（書道Ⅰ）の目標の改善案の例

現行	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、 <u>効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける</u> ようにする	書のよさや美しさを感じ、 <u>意図に基づいて構想し表現を工夫</u> したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする



改善案	
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等
書の特性、伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、 <u>効果的、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付ける</u> ようにする	書の伝統と文化の <u>意味や価値について考え、構想し工夫することにより効果的、創造的に表現</u> したり、価値意識をもって書のよさや美しさを感じたりすることができるようにする

小学校音楽科の目標見直し

黄色ハイライト：
第5回芸術WGから
の変更点

現行の記載

改善（案）

【小学校学習指導要領】

◎音楽科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。

学びに向かう力、人間性等

音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

◎解説の「音楽的な見方・考え方」

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などに関連付けること

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎目標

表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技能 （案）

音楽を発想豊かに表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする

思考力、判断力、表現力等 （案）

音楽表現についての思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりすることができるようにする

学びに向かう力、人間性等 （案）

楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、創造的に音楽に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う

◎見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

中学校音楽科の目標見直し

黄色ハイライト：
第5回芸術WGから
の変更点

現行の記載

改善（案）

【中学校学習指導要領】

◎音楽科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

曲想と音楽の構造や背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

学びに向かう力、人間性等

音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

◎解説の「音楽的な見方・考え方」

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関連付けること

◎目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技能

（案）

音楽を創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする

思考力、判断力、表現力等

（案）

音楽表現について考え、思いや意図をもって創造的に表現したり、価値を見いだしながら音楽のよさや美しさなどを味わって聴いたりすることができるようにする

学びに向かう力、人間性等

（案）

楽しさを味わいながら主体的・協働的に音楽活動に取り組み、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、創造的に音楽や音楽文化に関わり親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う

◎見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

小学校図画工作科の目標見直し

黄色ハイライト：
第5回芸術WGから
の変更点

現行の記載

改善（案）

【小学校学習指導要領】

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎ 図画工作科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

学びに向かう力、人間性等

つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

◎ 解説の「造形的な見方・考え方」

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと

◎ 目標

表現及び鑑賞の活動を通して、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技能 （案）

対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、**材料や用具を使い、表し方を身に付けることができるようにする**

思考力、判断力、表現力等 （案）

造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方の**工夫**などについて考え、創造的に**表現したり**、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

学びに向かう力、人間性等 （案）

つくりだす喜びを味わいながら、主体的・協働的に**創造活動**に取り組むとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う

◎ 見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

現行の記載

改善（案）

【中学校学習指導要領】

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎美術科の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

◎解説の「造形的な見方・考え方」

よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと

◎目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技能 (案)	思考力、判断力、表現力等 (案)	学びに向かう力、人間性等 (案)
対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、豊かに発想し構想を練って表現したり、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	創造活動の喜びを味わいながら、主体的・協働的に美術の活動に取り組むとともに、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

◎見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

現行の記載

【高等学校学習指導要領】

◎ 芸術科の目標

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技能

芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

思考力、判断力、表現力等

創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

学びに向かう力、人間性等

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

◎ 解説の「各科目における見方・考え方」

各科目の特質に応じた物事を捉える視点や考え方のことである。具体的には、音楽における「音楽的な見方・考え方」、美術及び工芸における「造形的な見方・考え方」、書道における「書に関する見方・考え方」である

改善（案）

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎ 目標

芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技能 （案）

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、**創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な**技能を身に付けるようにする

思考力、判断力、表現力等 （案）

思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもつて芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

学びに向かう力、人間性等 （案）

生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、芸術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

◎ 見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、美を構成する要素とその働き、文化などの視点で捉え、芸術の意味や価値を追求すること

高等学校芸術科（音楽）の目標見直し

黄色ハイライト：
第5回芸術WGからの変更点

現行の記載

【高等学校学習指導要領】

◎ 芸術科音楽（Ⅰ～Ⅲ）の目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
音楽Ⅰ	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
音楽Ⅱ	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
音楽Ⅲ	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

◎ 解説の「音楽的な見方・考え方」

感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること

改善（案）

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎ 目標

音楽の幅広い活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す			
音楽Ⅰ	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
	イメージをもって音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	自己のイメージに基づいた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、創造的に音楽や音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽の諸活動を通して、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す			
音楽Ⅱ	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
	創意工夫を生かして音楽を創造的に表現したり、曲や演奏の価値を見いだしながら創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	個性豊かな音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽を評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、創造的に音楽や音楽文化と関わり親しんでいくとともに、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う
音楽の諸活動を通して、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す			
音楽Ⅲ	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
	音楽を創意工夫や表現上の効果を生かして創造的に表現したり、芸術としての音楽の価値を見いだしながら創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする	音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かな音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽を解釈したり評価したりしながらよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽や音楽文化を尊重し、音楽によって心豊かな生活や社会を築いていく態度を養い、豊かな情操を培う

◎ 見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

高等学校芸術科（美術）の目標見直し

黄色ハイライト：
第5回芸術WGからの変更点

現行の記載

【高等学校学習指導要領】

◎ 芸術科美術（Ⅰ～Ⅲ）の目標

美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	
	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
美術Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かに創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	
	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	
美術Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	
	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫などについて考え、個性を生かして発想し構想を練って表現したり、自己の価値観を働かせて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	

◎ 解説の「美術的な見方・考え方」

感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと

改善（案）

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎ 目標

美術Ⅰ	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力（案）	学びに向かう力、人間性（案）
	対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について幅広く理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って表現したり、自己の価値観を高めて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力（案）	学びに向かう力、人間性（案）
美術Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って表現したり、自己の価値観を高めて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力（案）	学びに向かう力、人間性（案）
	対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解を深めるとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫などについて考え、個性を生かして発想し構想を練って表現したり、自己の価値観を働かせて美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、美術によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

◎ 見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

高等学校芸術科（工芸）の目標見直し

黄色ハイライト：
第5回芸術WGか
らの変更点

現行の記載

改善（案）

【高等学校学習指導要領】

◎ 芸術科工芸（Ⅰ～Ⅲ）の目標

工 芸 Ⅰ	工芸の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	
	工芸の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
工 芸 Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、個性豊かに創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	
	工芸の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸の伝統と文化を尊重し、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	
工 芸 Ⅲ	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と工夫、工芸の働きなどについて考え、思いや願いなどから個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸の伝統と文化を尊重し、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。	

◎ 解説の「工芸的な見方・考え方」

感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎ 目標

工 芸 Ⅰ	工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を重ね、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
	対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、 創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに 発想し構想を練って表現したり 、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う	
	工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を深め、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
工 芸 Ⅱ	対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、 創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、表現の意図と 創造的な工夫 などについて考え、個性豊かに 発想し構想を練って表現したり 、自己の価値観を高めて工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う	
	工芸の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
	対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について理解を深めるとともに、 創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と工夫などについて考え、個性を生かして 発想し構想を練って表現したり 、自己の価値観を働かせて工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする	主体的・協働的に工芸の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、工芸の伝統と文化を尊重し、工芸によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う	

◎ 見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

高等学校芸術科（書道）の目標見直し

黄色ハイライト：
第5回芸術WGからの変更点

現行の記載

【高等学校学習指導要領】

◎ 芸術科書道（Ⅰ～Ⅲ）の目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
書道Ⅰ	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
書道Ⅱ	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
書道Ⅲ	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

◎ 解説の「書道的な見方・考え方」

感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、書の表現の意味や価値を見いだすこと

改善（案）

※今後の内容等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

◎ 目標

	書道の幅広い活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す。		
書道Ⅰ	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
	書の 特性 、伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、 効果的、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより 効果的、創造的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の幅広い創造的な活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
	書道の創造的な諸活動を通して、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す。		
書道Ⅱ	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
	書の 特性 、伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的、 個性的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより 創造的、個性的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化を尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う
	書道の創造的な諸活動を通して、生活や社会の中の多様な文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力について、次のとおり育成することを目指す。		
書道Ⅲ	知識及び技能（案）	思考力、判断力、表現力等（案）	学びに向かう力、人間性等（案）
	書の 特性 、伝統と文化について理解を深めるとともに、創造的、 個性的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする	書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより 創造的、個性的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする	主体的・協働的に書道の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書によって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う

◎ 見方・考え方

感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

**生きて働く
知識及び技能**

他の学習や生活の場面でも活用できる

**未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力等**

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力 **知識及び技能に関する統合的な理解**

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱や器楽で表現できることを理解している

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の知識や技能

- ・ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じ受すること
- ・ 身体を調節したり、声を合わせたりして歌う技能を身に付けるとともに、声の音色や全体の響きの特徴と歌い方との関わりについて理解すること

など

高次の資質・能力 **思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮**

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の思考力、判断力、表現力等

- ・ 音楽を形づくっている要素について知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること
- ・ 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって歌ったり演奏したりすること

**生きて働く
知識及び技能**

他の学習や生活の場面でも活用できる

**未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力等**

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力 **知識及び技能に関する統合的な理解**

個別の知識や技能が相互に関連付けられて
一般化され、統合的な理解となった姿

音の響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて
実感を伴って捉えながら、即興的に音を出して試し
たり音楽の仕組みを用いたりすることにより、発想を
得たり思いや意図をもったりして音楽をつくって表現
できることを理解している

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の知識や技能

- ・ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感
受すること
- ・ 音を選択したり、音楽の仕組みなどを用いて組み合わ
せたりして表現する技能を身に付けるとともに、いろ
んな音、音やフレーズをつなげたり重ねたりしたときの響
きの特徴について理解すること

高次の資質・能力 **思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮**

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、
表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

音や音楽について知覚し感受したことをよりどころに
して思考を巡らせ、設定した条件に基づいて発想を
得たり思いや意図をもったりし、自分や他者にとって
創作による表現がもつ意味や価値について考え、
音楽表現を深めることができる

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化

個別の思考力、判断力、表現力等

- ・ 音楽を形づくっている要素について知覚したことと
感受したこととの関わりについて考えること設定し
た条件に基づいて、即興的に表現することを通し
て、音楽づくりの様々な発想を得ること
- ・ 設定した条件に基づいて、どのように音楽をつくる
かについて**思いや意図をもって音楽をつくって表
す**こと

生きて働く
知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

高次の資質・能力 知識及び技能に関する**統合的な理解**

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

曲にふさわしい声の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱で表現できることを理解している

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の知識や技能

- ・ 音楽を形づくっている要素やその働きを諸感覚で捉えること
- ・ 音楽に関する用語や記号などについて、楽譜上での役割や音楽における働きと関わらせて理解すること
- ・ 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて、身体の使い方などの技能を身に付けて歌いながら理解すること
- ・ 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者と合わせて演奏する技能を身に付けて歌いながら理解すること

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力 思考力、判断力、表現力等の**総合的な発揮**

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、**音楽表現を深める**ことができる

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の思考力、判断力、表現力等

- ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連とそれらの働きとの関わりについて考えること
- ・ 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や歌詞の内容、曲の背景などの関わりを考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、**思いや意図をもって歌う**こと

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化

生きて働く 知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

高次の資質・能力 **知識及び技能に関する統合的な理解**

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

曲にふさわしい楽器の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を器楽で表現できることを理解している

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の知識や技能

- ・ 音楽を形づくっている要素やその働きを諸感覚で捉えること
- ・ 音楽に関する用語や記号などについて、楽譜上での役割や音楽における働きと関わらせて理解すること
- ・ 楽器の音色や響きと奏法との関わりについて、身体の使い方などの技能を身に付けて演奏しながら理解すること
- ・ 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者と合わせて演奏する技能を身に付けて演奏しながら理解すること

未知の状況にも対応できる 思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力 **思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮**

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、**音楽表現を深める**ことができる

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の思考力、判断力、表現力等

- ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連とそれらの働きとの関わりについて考えること
- ・ 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や曲の背景などの関わりを考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、**思いや意図をもって演奏すること**

生きて働く
知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

高次の資質・能力 知識及び技能に関する**統合的な理解**

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

音や音同士の関係の特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、思いや意図を創作で表現できることを理解している

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の知識や技能

- ・ 音楽を形づくっている要素やその働きを諸感覚で捉えること
- ・ 音楽に関する用語や記号などについて、楽譜上での役割や音楽における働きと関わらせて理解すること
- ・ 音をつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴及び反復、変化、対照などによって生まれる構成上の特徴について、音を選択したり組み合わせたりする技能を身に付けて音楽をつくりながら理解すること

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力 思考力、判断力、表現力等の**総合的な発揮**

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、課題や条件に沿って音楽をつくるための思いや意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、**音楽表現を深める**ことができる

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の思考力、判断力、表現力等

- ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連とそれらの働きとの関わりについて考えること
- ・ 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、**思いや意図をもって音楽をつくる**こと

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化

生きて働く 知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

高次の資質・能力 知識及び技能に関する**統合的な理解**

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

曲の特徴や表現上の効果を生かして歌う声の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を歌唱で表現できることを理解している

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の知識や技能

- ・ 音楽を形づくっている要素やその働きを諸感覚で捉えること
- ・ 音楽に関する用語や記号などについて、楽譜上での役割や音楽における働きと関わらせて理解すること
- ・ 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて、身体の使い方の技能を身に付けて歌いながら理解すること
- ・ 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者との調和を意識して歌う技能を身に付けて歌いながら理解すること
- ・ 様々な表現形態による歌唱表現の特徴について、それらの特徴を生かして歌う技能を身に付けて歌いながら理解すること

未知の状況にも対応できる 思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力 思考力、判断力、表現力等の**総合的な発揮**

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、**音楽表現を深める**ことができる

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化

個別の思考力、判断力、表現力等

- ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連とそれらの働きとの関わりについて考えること
- ・ 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や歌詞、曲の文化的・歴史的背景などの関わりを考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、**表現意図をもって歌う**こと

資質・能力の
「深まり」の
可視化

生きて働く 知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

未知の状況にも対応できる 思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力 **知識及び技能に関する統合的な理解**

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の知識や技能

- 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴や造形の働きを理解すること
- 造形遊びをする活動を通して、材料や用具の特徴を生かした使い方や、表し方を身に付けること

高次の資質・能力 **思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮**

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

形や色などを基に自分のイメージをもちながら、自ら材料や場所などに働きかけ、豊かに発想や構想をし、活動の過程で感じたことや考えたことを生かして表現することができる

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化

個別の思考力、判断力、表現力等

- 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと
- 材料や場所、空間などの特徴を基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考え、活動を工夫して表現すること

生きて働く
知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力 知識及び技能に関する**統合的な理解**

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、統合的な理解となった姿

高次の資質・能力 思考力、判断力、表現力等の**総合的な発揮**

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している

形や色などを基に自分のイメージをもちながら、夢や願いをもって、豊かに発想や構想をし、**活動の過程で感じたことや考えたことを生かして表現する**ことができる

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の知識や技能

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の思考力、判断力、表現力等

- 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴や造形の働きを理解する
- 絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具の特徴を生かした使い方や、表し方を身に付けること

- 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ。
- 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考え、**表し方を工夫して表現すること**

生きて働く
知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力 知識及び技能に関する**統合的な理解**

個別の知識や技能が相互に関連付けられて
一般化され、統合的な理解となった姿

自分と美術との視点に立って、造形の要素の働き
やイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉
えながら、状況に応じて活用できる技能を身に付け
ることにより、創造的に表現できることを理解してい
る

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の知識や技能

- ・ 造形的な視点を理解すること
- ・ 美術の働きや美術文化について理解すること
- ・ 材料や用具を生かし、表現方法を追求すること
- ・ 効果的な表し方の見通しをもつこと

高次の資質・能力 思考力、判断力、表現力等の**総合的な発揮**

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、
表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

自分と美術との視点に立って対象や事象を見つめ、
感じ取ったことや考えたことなどを基に、**豊かに発想
や構想をし、意図に応じて表現する**ことができる

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化

個別の思考力、判断力、表現力等

- ・ 感じ取ったことや考えたことなどを基にした主題を
生み出すこと
- ・ 構想を練ること
- ・ **意図に応じて工夫して表現すること**

生きて働く
知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力 知識及び技能に関する**統合的な理解**

個別の知識や技能が相互に関連付けられて
一般化され、統合的な理解となった姿

高次の資質・能力 思考力、判断力、表現力等の**総合的な発揮**

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、
表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

身近な生活や社会と美術との視点に立って、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している

身近な生活や社会と美術との視点に立って対象や事象を見つめ、目的や条件などを基に、**豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現する**ことができる

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の知識や技能

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の思考力、判断力、表現力等

- ・ 造形的な視点を理解すること
- ・ 美術の働きや美術文化について理解すること
- ・ 材料や用具を生かし、表現方法を追求すること
- ・ 効果的な表し方の見通しをもつこと

- ・ 目的や条件、意図などを基にした主題を生み出すこと
- ・ 構想を練ること
- ・ **意図に応じて工夫して表現すること**

生きて働く
知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力 知識及び技能に関する**統合的な理解**

個別の知識や技能が相互に関連付けられて
一般化され、統合的な理解となった姿

自分と美術との視点に立って、造形の要素の働き
やイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉
えながら、課題に応じて活用できる技能を身に付け
ることにより、創造的に表現できることを理解してい
る

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の知識や技能

- ・ 造形的な視点を理解すること
- ・ 美術の働きや美術文化について理解すること
- ・ 材料や用具を映像メディア機器等を総合的に生
かし、表現方法を追求すること
- ・ 効果的な表し方の見通しをもつこと

高次の資質・能力 思考力、判断力、表現力等の**総合的な発揮**

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、
表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

自分と美術との視点に立って対象や事象を深く見つ
め、感じ取ったことや考えたことなどを基に、心豊かに
発想や構想をし、意図に応じて表現することができ
る

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化

個別の思考力、判断力、表現力等

- ・ 感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主
題を生成すること
- ・ 構想を練ること
- ・ **意図に応じて工夫して表現すること**

生きて働く
知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力 知識及び技能に関する**統合的な理解**

個別の知識や技能が相互に関連付けられて
一般化され、統合的な理解となった姿

身近な生活と工芸との視点に立って、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の知識や技能

- ・ 造形的な視点を理解すること
- ・ 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること
- ・ 材料や用具を生かし、表現方法を追求すること
- ・ 効果的な表し方の見通しをもつこと

高次の資質・能力 思考力、判断力、表現力等の**総合的な発揮**

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

身近な生活と工芸との視点に立って対象や事象を深く見詰め、自然や素材、自分の思いなどから、心豊かに**発想や構想をし、意図に応じて表現すること**ができる

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化

個別の思考力、判断力、表現力等

- ・ 自然や素材、自己の思いなどから心豊かな発想をすること
- ・ 構想を練ること
- ・ **意図に応じて工夫して表現すること**

生きて働く
知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力 知識及び技能に関する**統合的な理解**

個別の知識や技能が相互に関連付けられて
一般化され、統合的な理解となった姿

作品や書における美の構造やその働き、書の伝統と文化について実感を伴って捉えながら、身体の機能や感覚を駆使して目的や状況に応じて自在に活用できる技能を身に付けることにより、創造的、個性的に表現できることを理解している

資質・能力の
「深まり」の
可視化

個別の知識や技能

- ・ 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること
- ・ 漢字の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形づくる背景について理解すること
- ・ 用具・用材の特徴、漢字の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること

高次の資質・能力 思考力、判断力、表現力等の**総合的な発揮**

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿

自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、作品や書の美とその価値について深く考え、自らの価値意識に基づいて、**創造的、個性的に美を表現**したり自己表現したりすることができる

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化

個別の思考力、判断力、表現力等

- ・ 漢字の書の古典を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
- ・ 自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し工夫して効果的、**創造的に表現**すること

その他「高次の資質・能力」での構造化に当たり留意すべきポイントについて

（「高次の資質・能力」について）

- 単学年ごとに「高次の資質・能力」を示している場合などで、「高次の資質・能力」が個別の内容事項と近接してしまい資質・能力の深まりが示せていないものもあり、そういった場合は複数の「高次の資質・能力」をまとめて水準を上げることも考えられるのではないかな
- 特に「総合的な発揮」については、学びの成果として達成して欲しい姿として重要であると同時に、学習過程において、状況に応じて思考力・判断力・表現力を選択したり組み合わせたりしながら、繰り返し発揮される中で育成されていく側面を有するという視点も踏まえた示し方とすべき（一方、学習過程自体を記述するものではないことに留意が必要）
- 「高次の資質・能力」については、深い学びを実現する授業のイメージを教師が持てるようにする視点に加えて、児童生徒の多様性を包摂する授業づくりを進めるために活用するという視点も重要。このため、児童生徒の多様性を踏まえた多様なアプローチが許容されるものとなっている必要があります、そのためにも、特定の活動を想起させる狭い記載ではなく、できる限りスリムで骨太な記載とすべき

（学校段階の特性を踏まえた共通性の確保について）

- 多くの教科を指導する小学校の教員から見ると、教科間の記載にばらつきが大きすぎると理解が進まない恐れ。各教科等の特性を踏まえつつも、各学校段階では一定の共通性を持って見られるよう抽象度の高さを含め一定の平準化が必要。他の学校段階や他教科等の表現も参考にしつつ、当該学校段階の発達段階を踏まえた「深い学び」の姿を具体的にイメージできるようになるかという共通の視点をもって検討が必要

（資質・能力の3つの柱の性質を踏まえた整理について）

- 並列パターン、並行パターンといった形式上の違いはあれど、資質・能力の整理は本質的なところで共通している必要。特に「思考力・判断力・表現力等」については、これまでに習得した知識や技能を活用して、実社会・実生活などの場面を想定した課題解決に近い形で資質・能力を発揮するという性質の柱であり、「知識及び技能」とりわけ技能との適切な整理が必要。「学びに向かう力・人間性等」は「思考力・判断力・表現力等」の中で見取る方向で検討していることも踏まえ、異なる整理をしている教科においては、引き続き検討が必要

論点 2 「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査等 について

論点2 「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査等について

1 各WGにおいて求められる資質・能力の構造化に関する更なる検討

- 第14回教育課程企画特別部会（令和8年2月2日開催）について、各WGにおける資質・能力の構造化に関する検討がなされたところ、「資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討の方向性（案）」として、以下の7つの観点について、共通して引き続き精査を要すると整理された

- ①資質・能力の深まりの可視化
- ②分かりやすさ、シンプルさの一層の追究
- ③「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査
- ④今般の構造化を単元・授業づくりに活かすプロセスの可視化
- ⑤用語の一層の整理・検討
- ⑥趣旨を実現するための教科書の在り方の更なる検討
- ⑦構造化・表形式化・デジタル化・調整授業時数・個に応じた学習過程の関係性の整理

- 高次の資質・能力について、①及び②に関しては、「深い学び」が実現したイメージを教師が具体的にもつことができるように、更なる記述の更新を図る方向で検討してはどうか

1 各WGにおいて求められる資質・能力の構造化に関する更なる検討（つづき）

- ③に関しては、今次改訂において、「知識及び技能に関する統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」を中心に、学習指導要領の目標・内容の一層の「構造化」を図ることとしている。生きて働く「知識及び技能」と未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」を育成するためには、**「構造化」により、「深い学び」を授業で具現化することが不可欠であり、そのための余白が十分にあるかという視点からも検討を行うこととされている**

（参考）「資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討の方向性（案）」（令和8年2月2日教育課程企画特別部会資料2-2）

「各教科等WGにおいて、整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、**個別の資質・能力の整理を検討する**。その際、表形式での示し方、「高次の資質・能力」の獲得に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための余白が十分にあるかといった視点からも検討」

- また、**多様な子供たちを包摂するため**、義務教育段階における調整授業時数制度の創設や高等学校における標準単位数の細分化など、**各学校が児童生徒の実態に応じた柔軟な教育課程を編成できる仕組みが導入されることに伴い、時数の調整が行われた後でも学習指導要領に定める内容を全て取り扱うことができるよう内容を精査することが重要**となる

2 芸術系教科・科目における資質・能力の精査の方向性（案）

- 芸術系教科・科目は、歌唱や器楽の活動、絵や立体、工作に表す活動、書道の活動などにおいて、題材を繰り返しながら、資質・能力の確実な定着を図るとともに、「深い学び」を実現していくことに特性がある。題材を通して児童生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを明確にしつつ、焦点化した効果的な指導を行うためにも、工夫のための余白をつくることは重要である
- 学校における指導計画の作成段階において、児童生徒の実態等を踏まえ、目標の達成に支障のない範囲で、設定する題材における既習の内容等を調整するなど、学校の実態に応じた題材構成の工夫を行うことができることを考慮しつつ、内容を精査することとしてはどうか
- 以上を踏まえ、芸術系教科・科目においては、学校や児童生徒等の実態を踏まえ、例えば、以下の方向性により個別の資質・能力の精査を行うこととしてはどうか

論点2 「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査等について

資質・能力の精査の例

音楽

- **「歌唱」及び「器楽」を「歌唱・器楽」の区分として統合し、内容事項を精査**することにより、授業のねらいや子供の実態に応じて**柔軟で効果的な指導を行うことができるよう改善**【小学校】

(例) 現状において、歌唱と器楽で同一の曲を扱う場合に、指導内容の重複を解消し、柔軟な指導ができるよう改善

(改善例：小学校)

「歌唱の活動を通して…指導する」、「器楽の活動を通して…指導する」 → 「**歌唱及び器楽**の活動を通して…指導する」

- 自分でやってわかる（理解する）ことを示せるよう、**技能と知識を統合して一文で示すことにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善**【小・中・高等学校】

(例) 実際に音を合わせるように演奏しながら、楽器の音色と演奏の仕方との関わりについて理解する学習が、限られた時間の中でも効果的に実施できるよう改善

(改善例：小学校)

「多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり」（知識）、「音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能」（技能）

➡ 「身体を調節したり、音を合わせたりして演奏する**技能を身に付けるとともに**、楽器の音色や全体の響きの特徴と演奏の仕方との関わりについて**理解すること**」（知識・技能）

- **具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行**するなどにより、**授業のねらいや子供の実態に応じた柔軟な指導を行うことができるよう改善**【小・中学校】

(例) 歌唱や器楽の学習において八長調及びイ短調の楽譜を扱うことについて、子供や学校の実態等に応じて柔軟に行うことができるよう改善

(改善例：小学校)

「範唱を聴いたり、**八長調及びイ短調**の楽譜を見たりして…」(技能)、「範奏を聴いたり、**八長調及びイ短調**の楽譜を見たりして…」(技能)

➡ 「範唱や範奏を聴いたり、楽譜等を見たりして…」(技能) ※「八長調及びイ短調」は内容の取扱いに移行

論点2 「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査等について

資質・能力の精査の例（続き）

図画工作、美術、工芸

- **造形遊びをする活動、絵や立体、工作に表す活動において育成する「技能」を統一した文言で示すことによって、共通する技能について効果的な指導ができるよう改善【小学校】**

（例）造形遊びにおいて粘土を材料とした活動で身に付けた技能が、絵や立体、工作に表す活動において粘土を材料として立体に表す際に、共通する技能について身に付いている場合には個別最適な指導が可能となるよう改善

（改善例：小学校）

「**造形遊びをする活動を通して**、活動に応じて材料や用具を活用する…」（技能）、

「**絵や立体、工作に表す活動を通して**、表現方法に応じて材料や用具を活用する…」（技能）

➡「材料や用具の特徴を生かした使い方や、表し方を身に付けること」（技能） ※共通する技能として統一的に示す

- **鑑賞の技能を明確にするなど鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善【小・中・高等学校】**

（例）鑑賞の活動において作品のよさや美しさなどについて感じ取る中で働かせていた技能を明確に位置付けることにより、鑑賞領域全体として焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善

（改善例：小学校）

「…自分たちの作品…などの造形的なよさや美しさ、…などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること」（思・判・表）

➡「自分たちの作品…よさや美しさ…などについて、感じ取ったり考えたりし、味わって鑑賞すること」（思・判・表）、

「…**表現の特徴や表し方の変化などを見いだす方法を身に付けること**」（技能）

論点2 「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査等について

資質・能力の精査の例（続き）

書道

- 表現の各分野（漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書）及び鑑賞のそれぞれにおいて、字形、全体の構成など、具体的に示していたものを、〔共通事項〕において書を構成する要素などの働き・関係として指導事項を精査することにより、学校等の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善

（例）書を構成する要素について、表現の各分野や鑑賞に関するそれぞれの指導において取り上げることとしていたことを、〔共通事項〕に位置付けることにより科目の指導全体の中で書を構成する要素を取り上げることができるよう改善

（改善例）

「漢字と仮名の調和した**字形、文字の大きさ、全体の構成**」（漢字かな交じりの書、思・判・表）

「古典の書体や書風に即した用筆・運筆、**字形、全体の構成**」（漢字の書、思・判・表）

「古典の書風に即した用筆・運筆、**字形、全体の構成**」（仮名の書、思・判・表）

「**線質、字形、構成等の要素**と表現効果や風趣との関わり」（鑑賞、知識）

➡「**書を構成する要素の働き**と、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること」〔共通事項〕

- 鑑賞の技能を明確にするなど、鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善

（例）鑑賞に係る技能を明確に位置付け、鑑賞活動を通して、知識及び技能を活用して思考力、判断力、表現力等を一体的に指導することにより、鑑賞領域全体として焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善

（改善例）

「作品の価値とその根拠」（思・判・表）、「生活や社会における書の効用」（思・判・表）、「書の伝統的な鑑賞の方法や形態」（知識）

➡「生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書の意味や価値について考えること」（思・判・表）

「書の伝統的な鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を**効果的に活用する技能**」（技能）

「書的美を捉える視点を通して、**読み取った情報や感じ取ったことを精査する技能**」（技能）



資質・能力の構造化の状況を踏まえた更なる検討の方向性（案）

令和8年2月2日
教育課程企画特別部会
資料2-2 P.1
(会議後修正)

- 各WGにおける資質・能力の構造化の検討状況を一覧化し、本部会の論点整理で示した資質・能力の構造化の趣旨や、総則・評価特別部会で整理したチェックポイント等を踏まえ検討したところ、以下1～7については共通して精査を要するのではないかと
- ✓これら以外に、各WGに対して個別に指摘すべき事項や、各WG共通で検討を要する事項はないか
- ✓本日の議論を踏まえて、引き続き総則・評価特別部会や各WGにおいて資質・能力の構造化の具体についてさらに検討を深めることとしてはどうか

1. 資質・能力の深まりの可視化

- 今般の構造化を通じ、「深い学び」が実現したイメージを教師が具体的に持つことができるようにすることが重要。（【資料1】P6 総則・評価特別部会「チェックポイント」B関連）
- こうした視点で見た際に、抽出された「高次の資質・能力」のうち特に「統合的な理解」については、依然として個別の知識及び技能が不足なく身に付いた状態を「要約」して示すに留まっているものも見られる。
- 個々の知識・技能が単に網羅されているかではなく、「指導を通じて学びが深まったときの児童生徒の姿をイメージできるような確に示しているか」といった観点から、各WGで記載を見直し、個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、「統合的な理解」となった児童・生徒の姿を描き出せるよう更に検討すべきではないか。

2. 分かりやすさ、シンプルさの一層の追究

- 「深い学び」を実現する具体的なイメージを持つことができるようにするためには、学習指導要領の記述が、教師にとって分かりやすく、学校を通じて保護者や地域住民等に伝えやすいものであることも重要。（【資料1】P6 総則・評価特別部会「チェックポイント」D関連）
- こうした視点で見た際に、整理されている「見方・考え方」や「高次の資質・能力」の中には依然として記載が冗長であったり、理解が難しい用語を用いて表現されているものも散見される。
- 各教科等の本質や育みたい資質・能力を十分に表現可能な範囲において、解説との役割分担も含め（教科等の本質的な意義に焦点化できているかという視点から精査）、一層分かりやすくシンプルに示すことが可能かどうか、引き続き各WGで検討してはどうか。

3. 「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査

- 総則・評価特別部会においては、「高次の資質・能力」の全体を暫定的に整理した後、それらを基に各教科等WGにおいて個別の資質・能力の検討を行う際の方向性として以下を示した。（【資料1】P7）

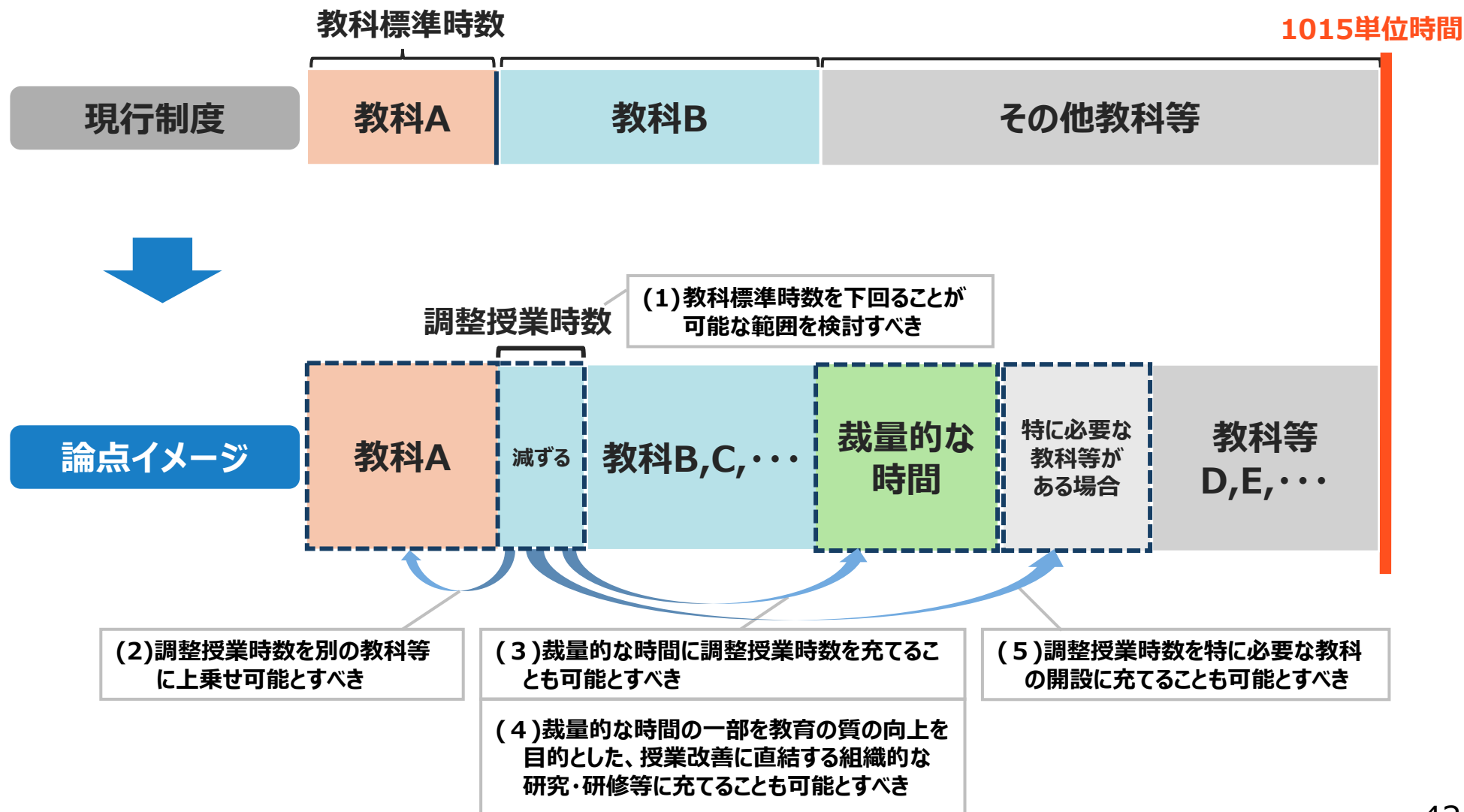
「各教科等WGにおいて、整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、個別の資質・能力の整理を検討する。その際、表形式での示し方、「高次の資質・能力」の獲得に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための余白が十分にあるかといった視点からも検討」

- 今後、上記の方向性に加え、下記の留意点も踏まえつつ、各教科等WGで個別の資質・能力の整理と必要に応じた精選の検討を進めてはどうか
 - ✓ 暫定的に現行学習指導要領の内容に基づき、高次の資質能力を整理してきたWGもあることから、今後の検討にあたっては、現行の指導内容が全て等しく重要であると安易に判断しないように留意する必要
 - ✓ 個別の資質・能力を検討していく中で「高次の資質・能力」の在り方についても往還しながら更に改善を図っていく必要

義務教育段階の柔軟な教育課程の方向性（調整授業時数制度）

令和8年1月19日
総則・評価特別部会
資料1P.4

多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程編成を促進するため、児童生徒や地域の実態を踏まえて、必要に応じて以下のような取組の一部又は全部の実施を可能とする方向で検討



音楽（小学校）

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

音楽表現についての思いや意図をもって表現したり、音楽を味わって聴いたりすることができるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱・器楽	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲の特徴を生かした表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱や器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素について知覚したものと感受したことの関わりについて考えること ・ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって歌ったり演奏したりすること
	音楽づくり	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、設定した条件に基づいて発想を得たり思いや意図をもったりし、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素について知覚したものと感受したことの関わりについて考えること ・ 設定した条件に基づいて、即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること ・ 設定した条件に基づいて、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって音楽をつくって表すこと
鑑賞		音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲全体を見通しながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし音楽を聴き深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素について知覚したものと感受したことの関わりについて考えること ・ 曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

黄色ハイライト：第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

音楽（小学校）

知識及び技能

目標

知識及び技能

音楽を発想豊かに表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱・器楽	音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱や器楽で表現できることを理解している	〔共通事項〕 - 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受すること など - 身体を調節したり、声（音）を合わせたりして歌う（演奏する）技能を身に付けるとともに、声（楽器）の音色や全体の響きの特徴と歌い方（演奏の仕方）との関わりについて理解すること
	音楽づくり	音の響きの特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、即興的に音を出して試したり音楽の仕組みを用いたりすることにより、発想を得たり思いや意図をもったりして音楽をつくって表現できることを理解している	〔共通事項〕 - 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受すること など - 音を選択したり、音楽の仕組みなどを用いて組み合わせたりして表現する技能を身に付けるとともに、いろいろな音、音やフレーズをつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴について理解すること
鑑賞		音楽の特徴などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、曲や演奏のよさなどを見いだすことができることを理解している	〔共通事項〕 - 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受すること など - 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

黄色ハイライト:第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

音楽（中学校）

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

音楽表現について考え、思いや意図をもって創造的に表現したり、価値を見いだしながら音楽のよさや美しさなどを味わって聴いたりすることができるようにする

内容

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 思いや意図をもって歌うこと
	器楽	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲にふさわしい表現に対する思いや意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 思いや意図をもって演奏すること
	創作	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、課題や条件に沿って音楽をつくるための思いや意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 思いや意図をもって音楽をつくること
鑑賞		音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、曲や演奏を自分と関わらせながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし、音楽を聴き深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くこと

黄色ハイライト: 第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

音楽（中学校）

知識及び技能

目標

知識及び技能

音楽を創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする

内容

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	曲にふさわしい声の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を歌唱で表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素やその働きを諸感覚で捉えること ・ 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて、身体の使い方の技能を身に付けて歌いながら理解すること ・ 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者と合わせて歌う技能を身に付けて歌いながら理解すること
	器楽	曲にふさわしい楽器の音色や響きの特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、思いや意図を器楽で表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素やその働きを諸感覚で捉えること ・ 楽器の音色や響きと奏法との関わりについて、身体の使い方の技能を身に付けて演奏しながら理解すること ・ 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者と合わせて演奏する技能を身に付けて演奏しながら理解すること
	創作	音や音同士の関係の特徴を個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音を選択したり組み合わせたりすることにより、思いや意図を創作で表現できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素やその働きを諸感覚で捉えること ・ 音素材の特徴、音をつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴及び反復、変化、対照などによって生まれる構成上の特徴について、音を選択したり組み合わせたりする技能を身に付けて音楽をつくりながら理解すること
鑑賞		音楽の特徴や多様性などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、よさや美しさなどを見いだすことができることを理解している	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素やその働きを諸感覚で捉えること ・ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること

黄色ハイライト: 第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（音楽）①）

音楽（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、表現力等

思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（音楽Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

自己のイメージに基づいた音楽表現について考え、表現意図をもって創造的に表現することや、音楽のよさや美しさなどを自ら味わって聴くことができるようにする

内容（音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって歌唱による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 表現意図をもって歌うこと
	器楽	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした表現に対する表現意図をもち、自分や他者にとって器楽による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 表現意図をもって演奏すること
	創作	音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、個性を生かした統一感のある音楽をつくるための表現意図をもち、自分や他者にとって創作による表現がもつ意味や価値について考え、音楽表現を深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 表現意図をもって音楽をつくること
鑑賞		音や音楽について知覚し感受したことをよりどころにして思考を巡らせ、音楽を解釈したり曲や演奏を評価したりしながら聴き、自分や他者にとって鑑賞がもつ意味や価値を見だし、音楽を聴き深めることができる	〔共通事項〕 ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連とそれらの働きとの関わりについて考えること ・ 曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを自ら味わって聴くこと

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

黄色ハイライト: 第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（音楽）②）

音楽（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、**創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする**

科目目標（音楽Ⅰ）

知識及び技能

イメージをもって音楽を創造的に表現したり、曲や演奏のよさや美しさなどを捉えて創造的に鑑賞したりするために必要な知識及び技能を身に付けるようにする

内容（音楽Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	歌唱	曲の特徴や表現上の効果を生かして歌うための声の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を歌唱で表現できることを理解している	【共通事項】 - 音楽を形づくっている要素やその働きを諸感覚で捉えること - 様々な表現形態による歌唱表現の特徴について、表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付けて歌いながら理解すること
	器楽	曲の特徴や表現上の効果を生かして演奏するための楽器の音色や響きなどを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて身体の使い方を調節することにより、表現意図を器楽で表現できることを理解している	【共通事項】 - 音楽を形づくっている要素やその働きを諸感覚で捉えること - 様々な表現形態による器楽表現の特徴について、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付けて演奏しながら理解すること
	創作	音や音同士の関係の特徴などを生かした音の選択や組合せを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えながら、状況や課題に応じて音楽をつくり変えたり変奏や編曲をしたりすることにより、表現意図を創作で表現できることを理解している	【共通事項】 - 音楽を形づくっている要素やその働きを諸感覚で捉えること - 音楽を形づくっている要素の働きの変化と曲想の変化との関わりについて、変奏したり編曲したりする技能を身に付けて音楽をつくりながら理解すること
鑑賞		音楽の特徴や多様性などを個々の感じ方等に基づいて実感を伴って捉えることにより、音楽のよさや美しさなどを見いだすことができることを理解している	【共通事項】 - 音楽を形づくっている要素やその働きを諸感覚で捉えること - 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解すること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、音や音楽、文化などの視点で捉え、意味や価値を見いだすこと

黄色ハイライト：第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

図画工作

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方の工夫などについて考え、創造的に表現したり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	造形遊び （仮）	形や色などを基に自分のイメージをもちながら、自ら材料や場所などに働きかけ、豊かに発想や構想をし、活動の過程で感じたことや考えたことを生かして表現することができる	〔共通事項〕 ・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと ・ 身近な自然物や人工の材料や場所などを基に造形的な活動を思い付くことや、どのように活動するかについて考え、活動を工夫して表現すること
	絵や立体、工作 （仮）	形や色などを基に自分のイメージをもちながら、夢や願いをもつて、豊かに発想や構想をし、活動の過程で感じたことや考えたことを生かして表現することができる	〔共通事項〕 ・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと ・ 感じたこと、想像したことなどから表したいことを見付けることや、どのように表すかについて考え、表し方を工夫して表現すること
鑑賞		形や色などを基に自分のイメージをもちながら、作品などを鑑賞し、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりして、自分や他者、生活における造形の意味や価値について考えることができる	〔共通事項〕 ・ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと ・ 自分たちの作品や親しみのある美術作品などのよさや美しさ、表現の意図などについて感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト: 第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

※区分名については、引き続き検討。

図画工作

知識及び技能

目標

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点や造形の働きについて理解するとともに、材料や用具を使い、表し方を身に付けることができるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	造形遊び （仮）	自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している。	〔共通事項〕 - 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること - 材料や用具の使い方や、表し方を身に付けること
	絵や立体、工作 （仮）	自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、場面に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している。	〔共通事項〕 - 自分の感覚や行為を通して形や色などや、造形の働きについて理解すること - 材料や用具の使い方や、表し方を身に付けること
鑑賞		自分の感覚や行為を通して造形的な特徴を捉えながら、作品などに応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している。	〔共通事項〕 - 自分の感覚や行為を通して、形や色などや、造形の働きについて理解すること - 自分たちの作品や、親しみのある美術作品などの表現の特徴などを見いだす方法を身に付けること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト：第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

美術（中学校）

思考力、判断力、表現力等

目標

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、**豊かに発想し構想を練って表現したり**、美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	自分と 美術との視点 に立って対象や事象を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、 豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	- 感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出すこと - 構想を練り、工夫して表現すること
	身近な生活や社会と美術（仮）	身近な生活や 社会と美術との視点 に立って対象や事象を見つめ、目的や条件などを基に、 豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	意図や、伝える、使うなどの目的や条件などを基に主題を生み出すこと - 調和のとれた美しさなどを考えて表現の構想を練り、工夫して表現すること
鑑賞	自分と美術（仮）	自分と 美術との視点 に立って美術作品などを見つめ、見方や感じ方を深め、 自分の中の美術がもつ意味や価値について考えることができる	造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深めること
	身近な生活や社会と美術（仮）	身近な生活や 社会と美術との視点 に立って美術作品などを見つめ、見方や感じ方を深め、 社会における美術がもつ意味や価値について考えることができる	目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と工夫などを考えて、見方や感じ方を深めること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、**造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと**

黄色ハイライト：第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（中学校美術②）

美術（中学校）

知識及び技能

目標

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について理解するとともに、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする

内容

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	自分と美術との視点に立って、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 - 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること - 美術の働きや美術文化について理解すること - 材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること - 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見直しをもつこと
	身近な生活や社会と美術（仮）	身近な生活や社会と美術との視点に立って、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、状況に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 - 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること - 美術の働きや美術文化について理解すること - 材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること - 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見直しをもつこと
鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との視点に立って、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法などを読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	〔共通事項〕 - 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること - 美術の働きや美術文化について理解すること - 視覚的な特徴などの情報を読み取ること
	身近な生活や社会と美術（仮）	身近な生活や社会と美術との視点に立って、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法などを読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	〔共通事項〕 - 形や色彩などの性質やその効果などと、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること - 美術の働きや美術文化について理解すること - 視覚的な特徴などの情報を読み取ること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト: 第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（美術）①）

美術（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、 表現力等

思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（美術Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、個性豊かに発想し構想を練って表現したり、価値意識をもって美術作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容（美術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	自分と美術との視点に立って対象や事象を深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、個性豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（絵画・彫刻、映像メディア表現） ・ 感じ取ったことや考えたことを基に主題を生成すること ・ 構想を練り、工夫して表現すること
	社会と美術（仮）	社会と美術との視点に立って対象や事象を深く見つめ、目的や条件、意図などを基に、個性豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（デザイン、映像メディア表現） ・ 目的や条件、機能などを考え、主題を生成すること ・ 構想を練り、工夫して表現すること
鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との視点に立って美術作品などを深く見つめ、見方や感じ方を深め、自分の中の美術がもつ意味や価値について考えることができる	（絵画・彫刻、映像メディア表現） ・ 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な表現の工夫などを考え、見方や感じ方を深めること
	社会と美術（仮）	社会と美術との視点に立って美術作品などを深く見つめ、見方や感じ方を深め、社会における美術がもつ意味や価値について考えることができる	（デザイン、映像メディア表現） ・ 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情、表現の意図と創造的な工夫などを考え、見方や感じ方を深めること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト：第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（美術）②）

美術（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、**創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする**

科目目標（美術Ⅰ）

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点や、美術の働き、美術文化について幅広く理解するとともに、**創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする**

内容（美術Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	自分と美術（仮）	自分と美術との視点に立って、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	【共通事項】 - 形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること - 美術の働きや美術文化について理解すること - 材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を幅広く追求すること - 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しをもつこと
	社会と美術（仮）	社会と美術との視点に立って、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	【共通事項】 - 形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること - 美術の働きや美術文化について理解すること - 材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を幅広く追求すること - 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しをもてるようにすること
鑑賞	自分と美術（仮）	自分と美術との視点に立って、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	【共通事項】 - 形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること - 美術の働きや美術文化について理解すること - 視覚的な特徴などの情報を読み取ること - 背景や文脈などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取ること
	社会と美術（仮）	社会と美術との視点に立って、造形の要素の働きやイメージ、美術文化などについて実感を伴って捉えながら、美術作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	【共通事項】 - 形や色彩、材料や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること - 美術の働きや美術文化について理解すること - 視覚的な特徴などの情報を読み取ること - 背景などを踏まえながら美術作品などの情報を読み取ること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト：第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（工芸）①）

工芸（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、 表現力等

思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（工芸Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫などについて考え、心豊かに発想し構想を練って表現したり、価値意識をもって工芸作品などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする

内容（工芸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との視点に立って対象や事象を深く見つめ、自然や素材、自分の思いなどから心豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（身近な生活の視点に立った発想や構想） ・ 自然や素材、自己の思いなどから、心豊かな発想をすること ・ 制作の構想を練り、工夫して表現すること
	社会と工芸	社会と工芸との視点に立って対象や事象を深く見つめ、使う人や生活環境などから心豊かに発想や構想をし、意図に応じて表現することができる	（社会的な視点に立った発想や構想） ・ 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をすること ・ 制作の構想を練り、工夫して表現すること
鑑賞	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との視点に立って工芸作品などを深く見つめ、見方や感じ方を深め、生活における工芸がもつ意味や価値について考えることができる	（身近な生活の視点に立って考える鑑賞） ・ 工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
	社会と工芸	社会と工芸との視点に立って工芸作品などを深く見つめ、見方や感じ方を深め、社会における工芸がもつ意味や価値について考えることができる	（社会的な視点に立って考える鑑賞） ・ 工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト：第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

高次の資質・能力の内容のイメージ（高等学校芸術科（工芸）②）

工芸（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、**創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする**

科目目標（工芸Ⅰ）

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点や、工芸の働き、工芸の伝統と文化について幅広く理解するとともに、**創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする**

内容（工芸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	区分	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との視点に立って、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 - 形や色彩、素材や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること - 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること - 制作方法を踏まえ、材料や用具を生かす生かし、表現方法を追求すること - 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しをもつこと
	社会と工芸	社会と工芸との視点に立って、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、課題に応じて活用できる技能を身に付けることにより、創造的に表現できることを理解している	〔共通事項〕 - 形や色彩、素材や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること - 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること - 制作方法を踏まえ、材料や用具を生かす、表現方法を追求すること - 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しをもつこと
鑑賞	身近な生活と工芸	身近な生活と工芸との視点に立って、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、工芸作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	〔共通事項〕 - 形や色彩、素材や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること - 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること - 視覚的な特徴などの情報を読み取ること - 背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取ること
	社会と工芸	社会と工芸との視点に立って、造形の要素の働きやイメージ、工芸の伝統と文化などについて実感を伴って捉えながら、工芸作品などの特徴や表現技法、背景などを幅広く読み取る技能を身に付けることにより、創造的に鑑賞できることを理解している	〔共通事項〕 - 形や色彩、素材や光などの性質やその効果など、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること - 工芸の働きや工芸の伝統と文化について理解すること - 視覚的な特徴などの情報を読み取ること - 背景などを踏まえながら工芸作品などの情報を読み取ること

見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的、文化的な視点で捉え、意味や価値をつくりだすこと

黄色ハイライト：第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

書道（高等学校芸術科）

思考力、判断力、表現力等

教科目標（芸術科）

思考力、判断力、表現力等

思いや意図に基づいて考え、工夫して創造的に表現したり、価値意識をもって芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする

科目目標（書道Ⅰ）

思考力、判断力、表現力等

書の伝統と文化の意味や価値について考え、構想し工夫することにより効果的、創造的に表現したり、価値意識をもって書のよさや美しさを味わい捉えたりすることができるようにする

内容（書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	高次の資質・能力 【思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮】	資質・能力（概略）
表現	自分と社会、文字や書の歴史や文化等との関わりから、作品や書の美とその価値について深く考え、自らの価値意識に基づいて、創造的、個性的に美を表現したり自己表現したりすることができる	- 名筆を生かした表現や現代に生きる表現、漢字の書及び仮名の書の伝統と文化に基づく表現について考えること - 自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
鑑賞	書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化等との関わりを通して、作品や書の美と、その伝統と文化の意味や価値について深く考え、書のよさや美しさを味わうことができる	- 生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書の意味や価値について考えること - 作品や書の美の構造、多様な背景との関わり、書の伝統と文化について考えることを通して、書のよさや美しさを味わうこと

見方・考え方

感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

書道（高等学校芸術科）

知識及び技能

教科目標（芸術科）

知識及び技能

各芸術分野の特質や芸術文化について理解するとともに、**創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする**

科目目標（書道Ⅰ）

知識及び技能

書の**特性**、伝統と文化について幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、**効果的、創造的に表現したり鑑賞したりするために必要な技能を身に付けるようにする**

内容（書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

領域	高次の資質・能力 【知識及び技能に関する統合的な理解】	資質・能力（概略）
表現	作品や書における美の構造やその働き、書の 伝統と文化 について実感を伴って捉えながら、身体 の機能や感覚 を駆使して目的や状況に応じて自在に活用できる技能を 身に付けること により、 創造的、個性的に表現 できることを理解している	〔共通事項〕 ・ 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること ・ 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること ・ 各分野の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形づくる背景について理解すること ・ 用具・用材の特徴、古典や名筆等の基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付けること
鑑賞	書の 伝統と文化 、書の美の多様性と関わらせて、書の美を捉える視点等について実感を伴って捉えながら、作品や書から 情報を読み取る技能を身に付けること により、作品や書のよさや美しさを豊かに味わうことができることを理解している	〔共通事項〕 ・ 書を構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること ・ 書の美の構造、書の美を捉える視点について理解すること ・ 書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、仮名の成立、漢字仮名交じりの書の成立について理解すること ・ 書の美を捉える視点を通して、読み取った情報や感じ取ったことを精査する技能を身に付けること

見方・考え方

感性を働かせ、文字や書を、書の美を構成する要素とその働き、伝統と文化などの視点で捉え、意味や価値を追求すること

黄色ハイライト:第5回芸術WGからの変更点

※目標、内容等については、今後の芸術ワーキンググループにおける検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

個別の資質・能力の精査のイメージ

(小学校音楽科第5学年及び第6学年の例)

現行の構成

A	歌唱・ 器楽 表現		(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
		知	イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。
		技	ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(イ)までの技能を身に付けること。 (ア) 範唱を聴いたり、 <u>八長調及びイ短調</u> の楽譜を見たりして歌う技能
		技	(イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能 (ウ) 各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能
	音楽 づくり		(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する
		思	ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴をにふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
		知	イ 次の(ア)と(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) <u>多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり</u>
		技	ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(イ)までの技能を身に付けること。 (ア) 範奏を聴いたり、 <u>八長調及びイ短調</u> の楽譜を見たりして演奏する技能 (イ) 音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能 (ウ) 各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能
		技	(3) 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	音楽 鑑賞	思	ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)と(イ)をできるようにすること。 (ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。 (イ) 音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
		知	イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解すること。 (ア) <u>いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴</u> (イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
		技	ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) <u>設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能</u> (イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能
		技	
		技	
B	鑑賞	思	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。 イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。
(共通事項)		思	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考えること。 イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。

改善(案)

A	歌唱・ 器楽 表現		歌唱及び器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもって歌ったり演奏したりすること
		知	身体を調節したり、声を合わせたりして歌う技能を身に付けるとともに、声の音色や全体の響きの特徴と歌い方との関わりについて理解すること
		技	身体を調節したり、音を合わせたりして演奏する技能を身に付けるとともに、楽器の音色や全体の響きの特徴と演奏の仕方との関わりについて理解すること
		技	範唱や範奏を聴いたり、楽譜等を見たりして、自己に適した方法で演奏のための情報を得ること
	音楽 づくり		音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思	設定した条件に基づいて、次の(ア)と(イ)をできるようにすること (ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること (イ) どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって音楽をつくって表すこと
		知	音を選択したり、音楽の仕組みなどを用いて組み合わせたりして表現する技能を身に付けるとともに、いろいろな音、音やフレーズをつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴について理解すること
		技	
		技	
B	鑑賞	思	鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること
(共通事項)		思	「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知	音楽を形づくっている要素について知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受すること 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 「歌唱」及び「器楽」を「歌唱・器楽」の区分として統合し、内容事項を精査することにより、授業のねらいや子供の実態に応じて柔軟で効果的な指導を行うことができるよう改善
- ② 自分でやってわかる（理解する）ことを示せるよう、技能と知識を統合して一文で示すことにより、焦点化した効果的な指導が行うことができるよう改善
- ③ 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行することにより、学校等の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善

個別の資質・能力の精査のイメージ

(中学校音楽科第1学年の例)

現行の構成

		(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
A 表現	思	ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。
	知	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり (イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり
		ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能 (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能
		(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。
	知	イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり
		ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能 (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能
		(3) 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。
	③ 知	イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。 (ア) 音のつながり方の特徴 (イ) 音楽材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴
ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。		
		(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
B 鑑賞	思	ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(イ)までについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。 (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠 (イ) 生活や社会における音楽の意味や役割 (イ) 音楽表現の共通性や固有性
	知	イ 次の(ア)から(イ)までについて理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造との関わり (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (イ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性
		(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	① 思	ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。
イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。		

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善(案)

A 表現	歌唱	歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や歌詞の内容、曲の背景などの関わりを考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと
		イ 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて、身体の使い方の技能を身に付けて歌いながら理解すること
	器楽	ウ 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者と合わせて歌う技能を身に付けて歌いながら理解すること
		器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や曲の背景などの関わりを考え、曲の特徴を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること
	創作	イ 楽器の音色や響きと奏法との関わりについて、身体の使い方の技能を身に付けて演奏しながら理解すること
		ウ 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者と合わせて演奏する技能を身に付けて演奏しながら理解すること
		創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
B 鑑賞	鑑賞	ア 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考えながら自分のイメージと関わらせて表現を工夫し、思いや意図をもって音楽をつくること
		イ 音をつなげたり重ねたりしたときの響きの特徴、反復、変化、対照などによって生まれる構成上の特徴について、音を選択したり組み合わせたりする技能を身に付けて音楽をつくりながら理解すること
		鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	鑑賞	ア (ア) 生活や社会における音楽の意味や役割について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くこと (イ) 音楽表現の共通性や固有性について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさなどを味わって聴くこと
		イ (ア) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解すること (イ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解すること
	(共通事項)	「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		思 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとの関わりについて考えること
		知 音楽を形づくっている要素やその働きを諸感覚で捉えること
	(共通事項)	技 音楽に関する用語や記号などについて、楽譜上での役割や音楽における働きと関わらせて理解すること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 自分でやってわかる(理解する)ことを示せるよう、技能と知識を統合して一文で示すことにより、焦点化した効果的な指導が行うことができるよう改善
- ② 記載が内容の取扱いと重複している部分について、事項から削除することにより、学校等の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善
- ③ 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行することにより、学校等の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善

個別の資質・能力の精査のイメージ

(高等学校芸術科(音楽Ⅰ)の例)

現行の構成

A	表現	知・技	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			(1)歌唱
			歌唱に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。
			イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
			(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり
			(イ) 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり
			(ウ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴
			ウ 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
			(ア) 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
A	表現	知・技	(イ) 他者との調和を意識して歌う技能
			(ウ) 表現形態の特徴を生かして歌う技能
			(2)器楽
			器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。
			イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
			(ア) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり
			(イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり
			(ウ) 様々な表現形態による器楽表現の特徴
			ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
A	表現	知・技	(ア) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能
			(イ) 他者との調和を意識して演奏する技能
			(ウ) 表現形態の特徴を生かして演奏する技能
			(3)創作
			創作に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫すること。
			イ 音楽材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解すること。
			ウ 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。
			(ア) 反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能
			(イ) 旋律をつくり、つづいた旋律に副次的な旋律や和音などを付けた音楽をつくり出す技能
B	鑑賞	知・技	(ウ) 音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、変奏や編曲をする技能
			鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			(1)鑑賞
			鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。
			(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠
			(イ) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値
			(ウ) 音楽表現の共通性や固有性
			イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
			(ア) 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり
B	鑑賞	知・技	(イ) 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり
			(ウ) 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴
			表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
			(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を覚知し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること
			イ 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。
			※ 思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善(案)

A	表現	知・技	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
			(1)歌唱
			歌唱に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 曲想と音楽の構造、曲の表す内容や歌詞、曲の文化的・歴史的背景などの関わりを考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって歌うこと
			イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
			(ア) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて、身体の使い方の技能を身に付けて歌いながら理解すること
			(イ) 声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者との調和を意識して歌う技能を身に付けて歌いながら理解すること
			(ウ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴について、それらの特徴を生かして歌う技能を身に付けて歌いながら理解すること
			(2)器楽
			器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
B	鑑賞	知・技	曲想と音楽の構造、曲の表す内容や曲の文化的・歴史的背景などの関わりを考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって演奏すること
			楽器の音色や響きと奏法との関わりについて、身体の使い方の技能を身に付けて演奏しながら理解すること
			声部同士の関わりや各声部と全体との関わりについて、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付けて演奏しながら理解すること
			様々な表現形態による器楽表現の特徴について、それらの特徴を生かして演奏する技能を身に付けて演奏しながら理解すること
			(3)創作
			創作に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 音や音同士の関係の特徴を生かし、課題や条件などに沿った表現を考え、自分のイメージと関わらせた表現を工夫し、表現意図をもって音楽をつくること
			イ 音型の特徴や構成上の特徴、音楽の形式の特徴などについて、反復、変化、対照などの手法を生かして音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくりながら理解すること
			ウ 音を連ねたり重ねたりしたときの響きの特徴について、 <u>旋律をつくり、旋律に副次的な旋律や和音などを付けた音楽をつくり出す技能</u> を身に付けて音楽をつくりながら理解すること
			鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
B	鑑賞	知・技	(1)鑑賞
			鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くこと
			イ 音楽表現の共通性や固有性について考え、曲や演奏を根拠をもって評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くこと
			ウ 曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること
			イ 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解すること
			ウ 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解すること
			表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
			(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			ア 音楽を形づくっている要素とそれらの働きとに関わりについて考えること
C	共通事項	知・技	音楽を形づくっている要素やその働きを諸感覚で捉えること
			音楽に関する用語や記号などについて、楽譜上での役割や音楽における働きと関わらせて理解すること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 自分でやってみる(理解する)ことを示せるよう、技能と知識を統合して一文で示すことにより、焦点化した効果的な指導が行うことができるよう改善
- ② 既成の旋律も活用して創作を行うことにより、学校等の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善

個別の資質・能力の精査のイメージ

(小学校図画工作科第5学年及び第6学年の例)

現行の構成

A 表 現	思	(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴などを基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考えること。
		イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。
	技	(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 造形遊びをする活動を通して、活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくること。
		イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。
B 鑑 賞	思	(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。
(共通事項)	知 思	(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。
		イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善（案）

A 表 現	造形遊び 思	表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する 造形遊びをする活動を通して、材料や場所、空間などの特徴などを基に造形的な活動を思い付くことや、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するかについて考え、活動を工夫して表現すること
		技 材料や用具の特徴を生かした使い方や、表し方を身に付けること
	絵や立体、工作 思	絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考え、表し方を工夫して表現すること
		技 材料や用具の特徴を生かした使い方や、表し方を身に付けること
B 鑑 賞	思 技	鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する 自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること
		自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの、表現の特徴や表し方の変化などを見いだす方法を身に付けること
(共通事項)	知 思	「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴や造形の働きを理解すること 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 造形遊びをする活動、絵や立体、工作に表す活動において育成する「技能」を統一した文言で示すことによって、共通する技能について効果的な指導ができるよう改善
- ② 鑑賞の技能を明確にするなど鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善

個別の資質・能力の精査のイメージ

(中学校美術科第1学年の例)

現行の構成

A 表現	思	(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。
		ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
		イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
B 鑑賞	思	(ア) 構成や装飾の目的や条件などを基に、対象の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ること。
		(イ) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。
		(ウ) 使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。
		(2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。
C 共通事項	知	ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。
		(イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見直しをもって表すこと。
		(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。
D 共通事項	知	ア 美術作品などの見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。
		(イ) 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。
		イ 生活の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
E 共通事項	知	(ア) 身の回りにおける自然物や人工物の形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。
		(イ) 身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げること。
		(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
F 共通事項	知	イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。
		イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。
		イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。
		イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善（案）

A 表現	思	表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する
		対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩など、想像したことなどを基に主題を生み出し、意図に応じた構成などについて考えながら心豊かな構想を練り、技能を働かせて創造的な表現をすること
		材料や用具を生かし、表現方法を追求すること
		材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しが持てるようにすること
B 鑑賞	思	目的や条件、意図などを基に、身近な生活との関わりなどから主題を生み出し、調和のとれた美しさなどを考え、心豊かな構想を練り、創造的な表現をすること
		伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和などを考え、心豊かな構想を練り、創造的な表現をすること
		使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどの調和などを考え、心豊かな構想を練り、創造的な表現をすること
		材料や用具を生かし、表現方法を追求すること
C 共通事項	知	材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しが持てるようにすること
		鑑賞の活動を通して次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。
		美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること
		美術作品などの造形的な特徴などの情報を読み取ること ①
D 共通事項	知	美術作品などの目的や条件、意図や機能などの調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること
		美術作品などの造形的な特徴などの情報を読み取ること ①
		「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること
E 共通事項	知	造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること
		生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること
		身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などの美術文化について理解すること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 鑑賞の技能を明確にするなど鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善
- ② 具体性の高い記述について精査を行い、内容の取扱いに移行することにより、学校等の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善

個別の資質・能力の精査のイメージ

(高等学校芸術科（美術Ⅰ）の例)

現行の構成

A	表	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 絵画・彫刻 絵画・彫刻に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想 (7) 自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成すること。 (4) 表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。
	技	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (7) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 (4) 表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すこと。
	鑑	(2) デザイン デザインに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 目的や機能などを考えた発想や構想 (7) 目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成すること。 (4) デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。
	技	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (7) 意図に応じて材料や用具の特性を生かすこと。 (4) 表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すこと。
	賞	(3) 映像メディア表現 映像メディア表現に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 映像メディアの特性を踏まえた発想や構想 (7) 感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成すること。 (4) 色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練ること。
	技	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (7) 意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かすこと。 (4) 表現方法を創意工夫し、表現の意図を効果的に表すこと。
B	鑑	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 鑑賞 鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	思	ア 美術作品などの見方や感じ方を深める鑑賞 (7) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (4) 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (9) 映像メディア表現の特質や表現効果などを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること。
	技	イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める鑑賞 (7) 環境の中に見られる造形的なよさや美しさを感じ取り、自然と美術との関わり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めること。 (4) 日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などから美意識や創造性などを感じ取り、日本の美術の歴史や表現の特質、それぞれの国の美術文化について考え、見方や感じ方を深めること。
	賞	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知	ア 造形の要素の働きを理解すること。 イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。
	共通事項	

改善（案）

A	表	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成し、知識や技能を活用して表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練り、創造的な表現をすること
	技	材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しが持てるようにすること
	鑑	目的や条件、意図や美しさなどを考え、主題を生成し、機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練り、創造的な表現をすること
		材料や用具、映像メディア機器等の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、効果的な表し方の見通しが持てるようにすること
	賞	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること
	技	美術作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること
	賞	美術作品などの目的や条件、意図との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り、社会との関わりを踏まえて、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めること
		美術作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること
B	共通事項	(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		造形の要素の働きを理解すること 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること 環境の中に見られる自然と美術の関わりや、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて理解すること 日本及び諸外国の美術作品や文化遺産などの美意識や想像性、日本の美術の歴史や表現の特質などの美術文化について理解すること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 表現と鑑賞の技能については、それぞれ統一した内容を示すことにより、複数の活動に共通する技能について効果的に指導ができるよう改善
- ② 「鑑賞」の(ア)～(ウ)を2つにまとめ、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善
- ③ 鑑賞の技能を明確にするなど鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善

個別の資質・能力の精査のイメージ

(高等学校芸術科（工芸 I）の例)

改善（案）

現行の構成

A 表 現	思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 身近な生活と工芸 身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	技	ア 身近な生活の視点に立った発想や構想 (ア) 自然や素材、自己の思いなどから心豊かな発想をすること。 (イ) 用途と美しさとの調和を考え、日本の伝統的な表現のよさなどを生かした制作の構想を練ること。
		イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。 (イ) 手順や技法などを吟味し、創造的に表すこと。
	思	(2) 社会と工芸 社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 社会的な視点に立った発想や構想 (ア) 使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな発想をすること。 (イ) 使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和を考え、制作の構想を練ること。
	技	イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能 (ア) 制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かすこと。 (イ) 手順や技法などを吟味し、創造的に表すこと。
	B 鑑 賞	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 鑑賞 鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
B 鑑 賞	思	ア 工芸作品などの見方や感じ方を深める鑑賞 (ア) 身近な生活の視点に立つてよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ) 社会的な視点に立つてよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること。
		イ 生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての見方や感じ方を深める鑑賞 (ア) 環境の中に見られる造形的なよさや美しさを感じ取り、自然と工芸との関わり、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて考え、見方や感じ方を深めること。 (イ) 工芸作品や文化遺産などから日本の工芸の特質や美意識を感じ取り、工芸の伝統と文化について考え、見方や感じ方を深めること。
	技	
	知	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知	ア 造形の要素の働きを理解すること。
		イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること。
	知	

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

A 表 現	思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		身近な生活と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	技	自然や素材、自己の思いなどから心豊かな発想をし、用途と美しさとの調和を考え、日本の伝統的な表現のよさなどを生かした制作の構想を練り、創造的な表現を工夫すること
		制作方法を踏まえ、材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しが持てるようにすること
	思	社会と工芸に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		社会や生活環境などの多様な視点や使う人の願いなどから個性豊かで創造的な発想をし、社会における有用性、機能と美しさとの調和を考え、素材の特質や表現の多様性などを生かした制作の構想を練り、意図に応じて工夫して表現すること
	技	制作方法を踏まえ、材料や用具の特性を生かし、表現方法を追求すること 材料や用具の特性などから、手順や技法などを吟味し、効果的な表し方の見通しが持てるようにすること
	B 鑑 賞	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
B 鑑 賞	思	工芸作品などのよさや美しさを感じ取り、身近な生活と工芸との関係から作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
		工芸作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること
	技	工芸作品のよさや美しさを感じ取り、社会や環境との関わりを踏まえて、作者の心情や意図と制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、見方や感じ方を深めること
		工芸作品などの造形的な特徴や、作者、時代背景、作品の文脈などの情報を幅広く読み取ること
	知	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	知	造形の要素の働きを理解すること
		造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解すること
	知	環境の中に見られる自然と工芸の関わりや、生活や社会を心豊かにする工芸の働きについて理解すること
		日本の工芸の特質や美意識、創造性など工芸の伝統と文化について理解すること

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 表現と鑑賞の技能については、それぞれ統一した内容を示すことにより、複数の活動に共通する技能について効果的に指導ができるよう改善
- ② 鑑賞の技能を明確にするなど鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善

個別の資質・能力の精査のイメージ

(高等学校芸術科(書道Ⅰ)の例)

現行の構成

A 表現	思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 漢字仮名交じりの書
		漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(イ)までについて構想し工夫すること。
		(ア)漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成 ①
		(イ)目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現
		(ロ)名筆を生かした表現や現代に生きる表現
		イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
		(ア)用具・用材の特徴と表現効果との関わり
		(イ)名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わり
	技	ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
		(ア)目的や用途に即した効果的な表現
		(イ)漢字と仮名の調和した線質による表現
	知	(2) 漢字の書
		漢字の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について構想し工夫すること。
		(ア)古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 ①
		(イ)意図に基づいた表現
		イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
		(ア)用具・用材の特徴と表現効果との関わり
		(イ)書体や書風と用筆・運筆との関わり
		ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
		(ア)古典に基づく基本的な用筆・運筆
		(イ)古典の線質、字形や構成を生かした表現
B 鑑賞	思	(3) 仮名の書
		仮名の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について構想し工夫すること。
		(ア)古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 ①
		(イ)意図に基づいた表現
		イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
		(ア)用具・用材の特徴と表現効果との関わり
		(イ)線質や書風と用筆・運筆との関わり
		ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
		(ア)古典に基づく基本的な用筆・運筆
		(イ)連綿と単体、線質や字形を生かした表現
	知	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		(1) 鑑賞
		鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について考え、書のみや美しさを味わって捉えること。
		(ア)作品の価値とその根拠 ②
		(イ)生活や社会における書の効用
		イ 次の(ア)から(イ)までについて理解すること。
		(ア)線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり ①
		(イ)日本及び中国等の文字と書伝統と文化
		(ロ)漢字の書体の変遷、仮名の成立等
		(ハ)書の伝統的な鑑賞の方法や形態 ②
(共通事項)	知	表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
		(1)「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。
(共通事項)	知	イ 書構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解すること。

※思：思考力、判断力、表現力等、知：知識、技：技能

改善(案)

A 表現	思	表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		漢字仮名交じりの書
		漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア) 漢字仮名交じりの書の名筆を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
		(イ)生活や社会における目的や用途、自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
		知 (ア) 漢字仮名交じりの書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
		技 (ア)用具・用材の特徴、名筆や現代の書の用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能
		漢字の書
		漢字の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア) 漢字の書の古典を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
		(イ) 自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
		知 (ア) 漢字の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
		技 (ア) 用具・用材の特徴、漢字の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能
		仮名の書
		仮名の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア) 仮名の書の古典を生かした表現や現代に生きる表現について考えること
		(イ) 自らの感興や表現の意図に基づいて、構想し表現を工夫して効果的、創造的に表現すること
		知 (ア) 仮名の書を構成する様々な要素の働きや、多様な書風を形作る背景について理解すること
		技 (ア) 用具・用材の特徴、仮名の書の古典に基づく基本的な用筆・運筆等の効果を生かして、効果的、創造的に表現するために必要な技能
B 鑑賞	思	鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。
		鑑賞
		鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		(ア) 生活や社会における作品や書の働きや効用、自分や他者にとっての作品や書の意味や価値について考えること
		(イ) 作品や書の美の構造、多様な背景との関わり、書の伝統と文化を考えることを通して、書のみや美しさを味わうこと
		知 (ア) 書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、仮名の成立、漢字仮名交じりの書の成立について理解すること
		技 (ア) 書の伝統的な鑑賞の方法や形態、様々な作品形式や展示方法を効果的に活用する技能
		(イ) 書のみを捉える視点を通して、読み取った情報や感じ取ったことを精査する技能
		(ハ) 表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力を次のとおり育成する。
		「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知 ア 書構成する要素の働きと、書の表現性、表現効果、風趣との関わりについて理解すること ①
		知 イ 書のみを捉える視点について理解すること
(共通事項)	知	※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

※内容の具体的な文言は、告示にあたり別途検討する

- ① 各分野(漢字仮名交じりの書、漢字の書、仮名の書)及び鑑賞のそれぞれにおいて、字形、全体の構成など、具体的に示していたものを、「共通事項」において書構成する要素などとして指導事項を精査することにより、学校等の実態に応じて柔軟な指導を行うことができるよう改善
- ② 鑑賞の技能を明確にするなど鑑賞活動を通して育成する資質・能力を整理することにより、焦点化した効果的な指導を行うことができるよう改善